

Title	オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響 : サウスウッド・スミスをめぐって
Author(s)	木村, 美里
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.5, 2012.3 : 19-21
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3877
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響 —サウスウッド・スミスをめぐる—

木村 美里

はじめに

これまで英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒルに思想的影響を与えた人物としてF.D.モーリスとジョン・ラスキンを挙げた¹。本稿ではこの続編として祖父トマス・サウスウッド・スミス博士 (Dr. Thomas Southwood Smith, 1788–1861) を挙げる。ヒルは父親からの影響よりもこの祖父の影響を受けているため、彼の人物像、活動およびヒルへ与えた影響について紹介したい。

1. サウスウッド・スミスの略歴と活動

サウスウッド・スミスは医師として、また当時「公衆衛生の父」²として著名な人物であった。サウスウッド・スミスは1778年にサマーセット (Somerset) に生まれ、厳格なカルヴァン主義の教育を受けた³。しかしながらその教育が、多くの点において自らの期待した教義に反するという結論を出した。「サウスウッド・スミスの生涯は19世紀初頭から60年間を含むが、彼はヴィクトリア時代の人ではなかった。彼の思想と見解は啓蒙思想に基づいて創られ、形成された」⁴ことも彼の独特な思想背景といえよう。彼はスコットランドのエディンバラで医学を学び、その後ロンドン熱病専門病院の医師として働いた。そこで患者と接することにより、労働者の不衛生な生活環境から発生した伝染病の実態に直面するのである。当時熱病の蔓延は接触による増殖が原因との認識が広まっていたが、サウスウッド・スミスは労働者が置かれた場所における衛生条件の悪さに根本的な原因があることを立証し、最終的に国会を納得させた⁵。

サウスウッド・スミスは経済学者のトマス・トゥック (Thomas Tooke, 1774–1858) ⁶、救貧法や貧民収容施設における名声を得て、『大英帝国における労働者貧民の衛生状態にかんする報告書』

(The Sanitary Conditions of the Labouring Population, 1842) を記したエドウィン・チャドウィック (Sir Edwin Chadwick, 1800–1890) ⁷と共に1832年に下院が設置した委員の一人であった。彼は公衆衛生と労働者の間で蔓延した伝染病に関する報告書を作成しており、それらの報告書はロンドンにおける公衆衛生の現状を把握する上で有効な書類として扱われた。事実、フリードリッヒ・エンゲルス (Friedrich Engels, 1820–1895) も自身の著書『イギリスにおける労働者階級の状態』(1845)の中でサウスウッド・スミスの報告書を引用して参考にしており⁸。また彼の伝記によると、初期のWestminster Reviewに掲載された無記名の公衆衛生を主題とする論文はサウスウッド・スミスによって書かれたものであると記されている⁹。

2. オクタヴィア・ヒルに与えた影響

ヒル家は父親の破産によりウィズビーチから離れることを余儀なくされ、家族も離散の危機に陥った。そこでサウスウッド・スミスはヒル家に財政面での援助を行い、ヒルは5歳から14歳までの9年間、サウスウッド・スミスの住まいに近いフィンチリのハムステッドで暮らした。

サウスウッド・スミスの人柄は「公衆のためにつくす心、根気強さ、疲れを知らない活力、優しい気質、党派的な対立による怒りを自分に許さず、忍耐強さがあった。さらに、そのような平静で沈着な気質は人々に安心感を与えるものであった」¹⁰と評されている。ヒルも類似する気質を持ち合わせていることから、彼の人間性から多くのことを学び、継承したといえる。したがって、ヒルが社会の矛盾 (不義と不平等) に対して深い関心をもった背景には、貧困者の人権擁護者としての祖父の存在があるとともに、彼が都市と貧困層の衛生を改善する方法を模索しながら活動していたこ

とがあったといえる¹¹。

ヒルはサウスウッド・スミスの家を度々訪れ、彼のもとで医学報告書や法律の抜粋を写す手伝いを行なった¹²。その際にイギリス都市における貧困の深刻さ、悲惨さを認識したと捉えることができる。また彼女はサウスウッド・スミスと彼の友人が集まる場にも参加しており、その交流から影響を受けていたと考えられる¹³。サウスウッド・スミスには著名な友人も多く、ロバート・オーエンやジェレミ・ベンサム (Jeremy Bentham, 1748-1832)¹⁴などがその一例として挙げられる。当時彼のもとには彼の立場上、社会的に重要な人物が一堂に会していた。この場での親交はその後のヒルの広範囲にわたる人脈形成を決定づけるものであったと推測できる。またその機会に異なる思想に触れたことはヒルにとって大きな財産となり、彼女の生涯において重要な意味を占めるようになったといえよう。

おわりに

祖父の存在はヒルに人間関係および人と人との交流をもつことの重要性を認識する機会を与え、とともに、下層階級の貧困と伝染病に関する知識を授けた。多くの人々との交流はその後のヒルの活動において重要な役割を果たしている。先述の医学報告書や法律の抜粋を写す手伝いについても、この経験がロンドンに住むこととなり、実際に貧困層の現状を目の当たりにし、その状況を改善しようとした住宅改良における活動の一助となったと推察できる。キリスト教信仰のもと、医学の側面からも人々の救済に尽力したサウスウッド・スミスの考えに学ぶことは多いといえよう。

参考文献

Bell, E., Moberly. *Octavia Hill: A Biography*, (London, Constable, 1942). 『英国住宅物語—ナショナルトラストの創設者オクタヴィア・ヒル伝』 (中島明子監修・解説、平弘明・松本茂訳、日本経済評論社、2001年)。

Clayton Peter. *Octavia Hill 1838-1912*, (The Wisbech Society & Preservation Trust Ltd., 1993).

Guy, R., John, Revd. *Compassion and the Art of the Possible* 2nd ed. (The Octavia Hill Society, 1997).

Hill William Thomson. *Octavia Hill - Pioneer of the National Trust and Housing reformer*; (London, Hutchinson, 1956).

Hill, Caroline, Southwood. *Notes on education: for mothers and teachers* Hill Octavia ed., (London, 1906).

Lewes, C. L. *Dr. Southwood Smith*, (London, Blackwood, 1898).

Murphy, Graham. *Founders of The National Trust*. New ed., (London, The National Trust, 2002). 『ナショナル・トラストの誕生』 四元忠博訳、(緑風出版、1992年)。

エンゲルス・フリードリッヒ『イギリスにおける労働者階級の状態』(上) (岩波書店、1990年)。

永井義雄『ベンサム』イギリス思想叢書、(研究社、2003年)。

中島直子『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動—その思想と活動—』(古今書院、2005年)。

1 『聖学院大学総合研究所Newsletter』Vol.19-1及びVol.19-2 (聖学院大学総合研究所、2009年)を参照。

2 Caroline Southwood Hill *Notes on education: for mothers and teachers* (London, 1906), p. v.

3 R. Guy *Compassion and the Art of the Possible* (1997), p. 2.

4 *Ibid.*, p. 2.

5 William Thomson Hill *Octavia Hill - Pioneer of the National Trust and Housing reformer*, (1956), p.27.

6 ロシア生まれのイギリスの実業家、経済学者。

7 イギリスの医師。公衆衛生の確立者の一人であり、汚染調査委員会設立に尽力。

8 フリードリッヒ・エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』(上)、(岩波書店、1990年)、196頁。

9 C. L. Lewes (1898) *Dr. Southwood Smith*, p. 17それまでの「公衆衛生」という言葉には、後の時代で使用される意味を包括していなかった。当時、公衆衛生科学は知られておらず、「公衆衛生法」という言葉は隔離条例としての法律以上に広範囲の意味を有していなかった。しかし、サウスウッド・スミスの論文が出版された頃より、これらの言葉が新しい意味を保持するようになった。

- 10 モバリー・ベル『英国住宅物語—ナショナルトラストの創設者オクタヴィア・ヒル伝』（日本経済評論社、2001年）、8頁。
- 11 Peter Clayton *Octavia Hill 1838-1912* (The Wisbech Society & Preservation Trust Ltd., 1993), p. 6-7.
- 12 グレアム・マーフィ（1992）『ナショナル・トラストの誕生』（緑風出版、1992年）、74頁。ベル、前掲書、12頁。
- 13 中島直子『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動—その思想と活動—』（古今書院、2005年）、155頁。
- 14 サウスウッド・スミスはバウリング版『著作集』でベンサムの著書『クレストメシア』の編集を行った。またベンサムの遺言に従い、ベンサムの死後彼を公開の解剖に付して、弔辞を述べたのもサウスウッド・スミスである。永井義雄『ベンサム』2003年253、254頁。

（きむら・みさと 聖学院大学総合研究所特任研究員）